



世界屈指のワイン産地と連携締結！

ワイン産業を軸とした国際連携を進めるべく、3月にイタリア・ピエモンテ州にあるランゲ地方の生産者連合およびジョージア・グルジャーニ市との間で、友好協力に関する覚書（MOU）を締結しました。いずれも世界屈指の銘醸ワイン産地であり、昨年のフランス、スイスの自治体に続いて海外産地4か所と連携を結んだこととなりました。

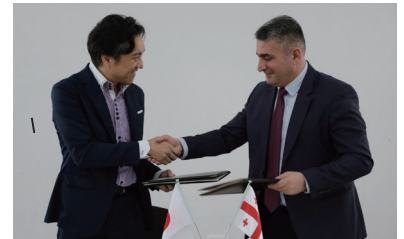
ランゲ地方は「ワインの王様」と呼ばれるイタリア最高峰の赤ワイン「バローロ」や「バルバレスコ」などの産地で知られ、ブドウ畑の景観はユネスコ世界文化遺産に登録されています。

グルジャーニ市は世界最古のワイン醸造法の一つとされる陶製甕「クヴェヴリ」を用いた生産で有名な産地であり、現地で行われた締結式には駐ジョージア特命全権大使の石塚英樹氏が同席し、同大使館の協力のもと執り行われました。

今後、生産者同士の技術共有や子どもたちとの国際交流をはじめとして経済、教育、文化など幅広い分野で連携し、さらなる産地化と地域の魅力化を進めていきます。



▲ 生産者連合の皆さんとの集合写真



▲ グルジャーニ市と締結の瞬間

問合せ 政策推進課 政策調整係 ☎21-2117



「美食都市アワード2026」受賞決定！

4月6日（月）、地域の食文化と創造性を讃える「美食都市アワード2026」の受賞都市が発表され、全国54都市・エリアの中から審査の結果、余市町を含む4都市が選ばれました。

美食都市アワードは、地域独自の美食文化の魅力や、食を軸としたまちづくりの取り組みを評価・表彰する日本初のアワードで、食を通じた地域ブランディングと活性化を促進し、国内外への発信力を強化することを目的としています。2024年の創設以来、持続可能な地域振興のモデルケースを発掘・支援する役割を果たしており、今回余市町は「食と観光が融合した地域資源が豊富で、日本を代表するワイン産地として国際的な評価を獲得している美食の街」として評価されました。

今回の受賞を契機に、より一層多様な主体と連携を深めながら、食と食文化を守り活用していくガストロノミーツーリズムを推進し、美食のまちづくりを進めていきます。

問合せ 政策推進課 政策調整係 ☎21-2117



新たな地域おこし協力隊員（ワイン産業支援員）が

4月に着任しました！

○イム・ピーター・ジェウ 隊員

ピーター隊員は韓国出身で、大学時代に1年間の短期留学で初めて来日し、卒業後は仁木町でALT（外国語指導助手）として勤務。その後、ニセコの観光事業を行う会社で勤務。

将来的には、若い世代が余市町へ移住し、仕事をするきっかけとなるような活動に取り組むとともに、ぶどう栽培やワイン醸造の分野では確かな技術を習得し、余市町のワイン産業の発展に貢献したいと語っていました。



○石田 一樹 隊員

石田隊員は大阪府出身。ワインショップにて勤務。

将来的には独立してワイナリーを開業することを目標に、栽培・醸造について学び、今後さらに厳しさを増すと予想されるワイン業界の中で、余市という産地をどのように世界へ確立していくのか、その中で自分がどのように関わっていくべきかを模索中。

また、ワインツーリズムで余市町を訪れても、小規模ワイナリーが多く受け入れが難しい現状があるため、その受け皿となるようなイベントや仕組みを考えていきたいと語っていました。



問合せ 政策推進課 政策調整係 ☎21-2117